

丹沢産ヤマネの消化管内容物について

青木 雄司・守屋 博文

Yuji Aoki and Hirofumi Moriya: Notes on Gut Contents of Japanese Dormouse at the Tanzawa Mountains

はじめに

ヤマネ *Glirulus japonicus* は齧歯目ヤマネ科に分類される小型の哺乳類である。日本固有種で本州・四国・九州に生息し、日本の絶滅危惧種に位置づけられている(環境省, 2002)。神奈川県では丹沢山地および道志山地に生息し、絶滅危惧 II 類に位置づけられている(高桑ほか, 2006)。ヤマネ科は盲腸を持たないために、果実・種子・花・新芽・昆虫など高栄養で消化しやすい食物に特殊化しているという(芝田, 2000)。ヤマネの食性については、飼育下での食物選考試験や野外での直接観察などによって解明されつつある。

著者らは丹沢山地の中心部に位置する山小屋で拾得した死体の消化管内容物を分析したのでここに報告する。なお、この個体は相模原市立博物館に本剥製として収蔵されている。

死体拾得状況

著者の一人が 2007 年 11 月 1 日、足柄上郡山北町に

ある神奈川県立ユースンロッジ(標高 740m)の便器で溺死した個体を発見した(図 1, 2)。ユースンロッジは 2 本の河川の合流点に位置する平坦な場所で、周囲をスギ・ヒノキの壮齢林や夏緑広葉樹林に囲まれている。周辺の林はニホンジカの採食圧により下層植生が貧弱化している。当時のユースンロッジは休業中であり、関係者が清掃のために 1 週間に 1 回程度行くだけであった。

発見した死体は腐敗臭が全くせず、死亡して間もないものと考えられた。計測値は体重 15.2g, 頭胴長 77.5mm, 尾長 50.5mm, 後足長 16.5mm で、性別はオスであった。

消化管内容物

胃および腸からは節足動物の外皮や翅が見つかった(表 1)。種まで同定できたものは 1 種のみで、それ以外は綱または目までしか判明しなかった。これらが屋外で採食されたのか、屋内で採食されたのかは不明である。判明したものについてその特徴・生態等を以下に記す。

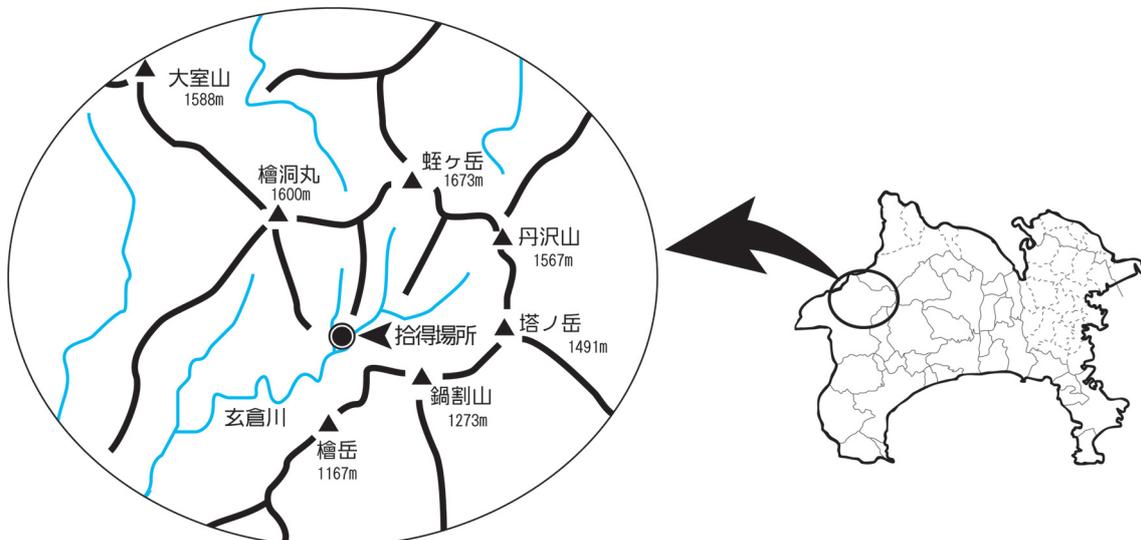


図 1. 拾得場所.



図 2. 拾得個体.

ムカデ類：触角・胴部胴節背面・脚（図 3）。石の下や落ち葉、倒木の下などで見ることができる。家屋の縁の下や資材などの下などに隠れていることもあり、梅雨の時期などには屋内に入り込み歩き回る個体を見ることもある。同個体のものかどうかは不明であるが、触角、胴部胴節背面、脚を見出すことができた。

カマドウマ類：口髭（図 4）。しゃもじ状になった先端、少し湾曲した節などから、カマドウマ類の口髭であると高橋耕司氏に同定いただいた。カマドウマ類は洞窟や木の洞、倒木の下、家屋内の縁の下や屋根裏などにも生息していることがある。

アルマンコブハサミムシ♀：鋏・腹部（図 5）。神奈川県内では丘陵から山地にかけて生息し、石の下や落ち葉、倒木の下、樹上などで見ることができる。メスの鋏は特徴がなく見分けにくい、発見場所の情報や根元の太さなどから、本種成虫のメスとして高橋耕司氏に同定



図 4. カマドウマ類. 口髭.



図 5. アルマンコブハサミムシ♀. 左：鋏；右：腹部表皮.



図 3. ムカデ類. 左上：胴部胴節背面；左下：触角；右：脚.

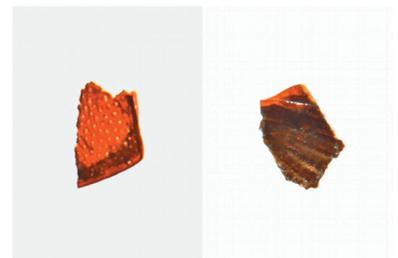


図 6. コウチュウ類. 左：胸部背面；右：前翅背面.



図 7. カメムシ類. 前翅.



図 8. ハエ類. 前翅.



図 9. チョウ類. 鱗片.

表 1. 消化管内容物.

節足動物	唇脚類	ムカデ類
	昆虫類	カマドウマ類
		アルマンコブハサミムシ
		カメムシ類
		コウチュウ類
		ハエ類
		チョウ類

いただいた。同個体のものとは言い切れないが、腹部表皮も発見されている。

コウチュウ類：胸部背面および前翅の一部（図 6）。不規則な点刻のある胸部背面と線状の隆起を有した前翅の一部と思われるコウチュウ類の部分片と思われる。

カメムシ類：前翅（図 7）。カメムシ前翅上部の一部と思われる。カメムシ類は、灯火に集まるものや越冬するため家屋に集まる種類もあり、捕食される可能性は高いと思われる。

ハエ類：前翅（図 8）。イエバエの仲間と思われるが、断定が難しいためハエ類とした。動物の死体や糞尿、腐敗物、残飯などさまざまなものに集まる。家屋内においてもトイレや台所、ゴミ捨て場などで繁殖している個体は多い。

チョウ類：鱗片（図 9）。写真のような葉状の鱗片や糸状の鱗片が見られ、ガ類のものと思われる。灯火に集まる習性があり、飛来しそのままか屋内にとどまっているようなこともある。

おわりに

今回の報告がヤマネの生態解明の一助になれば幸いである。解剖の手伝いをいただいた神奈川県立宮ヶ瀬ビジターセンターの柳川美保子氏、内容物の一部を同定・確

認していただいた神奈川昆虫談話会の高橋耕司氏、東京大学大学院農学生命科学研究科の谷川明男氏に厚くお礼を申し上げる。

引用文献

- 環境省編, 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック— I 哺乳類. 177pp. 自然環境研究センター, 東京.
- 芝田史仁, 2000. ヤマネ. 川道武男・近藤宣昭・森田哲夫編, 冬眠する哺乳類. pp.162-186. 東京大学出版会, 東京.
- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. 442pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

青木雄司：日本哺乳類学会
守屋博文：相模原市立博物館